

環境経営レポート 2024

株式会社ジュンコーポレイション

Period covered 2024/1/1 ~ 2024/12/31

Release date 2025/2/18



エコアクション21
認証番号 0001273

事業所：株式会社ジュンコーポレーション
〒379-0211 群馬県安中市松井田町上増田53-1
☎ 027-393-1375 FAX 027-393-4331 URL <https://www.jun-corporation.com>

代表者：代表取締役 小板橋 義和
管理責任者：品質管理課 宮田 延之
副管理責任者：製造課 金井 貴徳
事務局：総務課 多胡 美千子
環境委員：技術課 熊谷 俊明
：製造課 高橋 千穂

事業内容：プラスチック射出成形製品及び金型の製造・販売
ガスインジェクションやヒートアンドクールの特許技法が得意

事業規模	： 資本金	売上高	社員数	敷地面積	建物面積
	1,000万円	5 億円	3 5 名	2,435㎡	1,539㎡

会社沿革



- 企業理念 ① 諸法令を守り、社内外において正直な会社でありたい。
② 会社働く人々が能力開発につとめ、一人一人全員が幸せである会社でありたい。
③ あらゆる人に思いやりをもち あらゆる部門間において気を配り (以下省略)

環境経営方針

株式会社ジュンコーポレーションは、プラスチック製品の製造において
環境保全活動が重要な課題であると認識し、積極的に取り組みます。

行動指針

1. 全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善します。
2. 当社の事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。
3. 当社の事業活動に伴う以下の環境負荷の削減に取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
4. 当社の製品・サービスにおいて、顧客満足を向上します。
5. 代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。
6. 当社の環境方針は全社員に周知し、一般に公開します。

改定 2021 年 1 月 19 日
制定 2006 年 6 月 19 日
株式会社ジュンコーポレーション
代表取締役 小板橋 義和

1 対象範囲

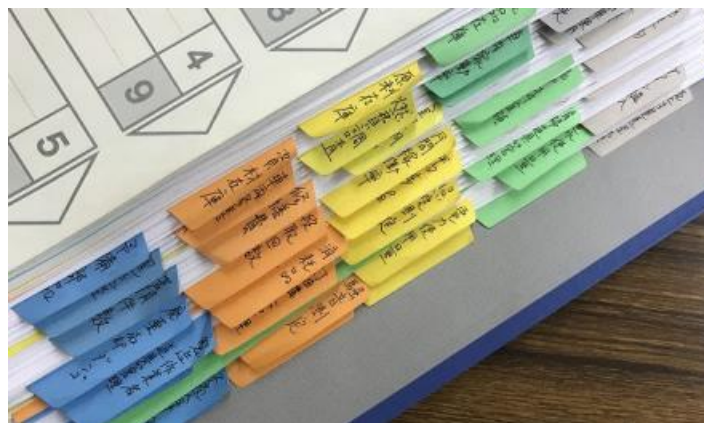
全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善しています。



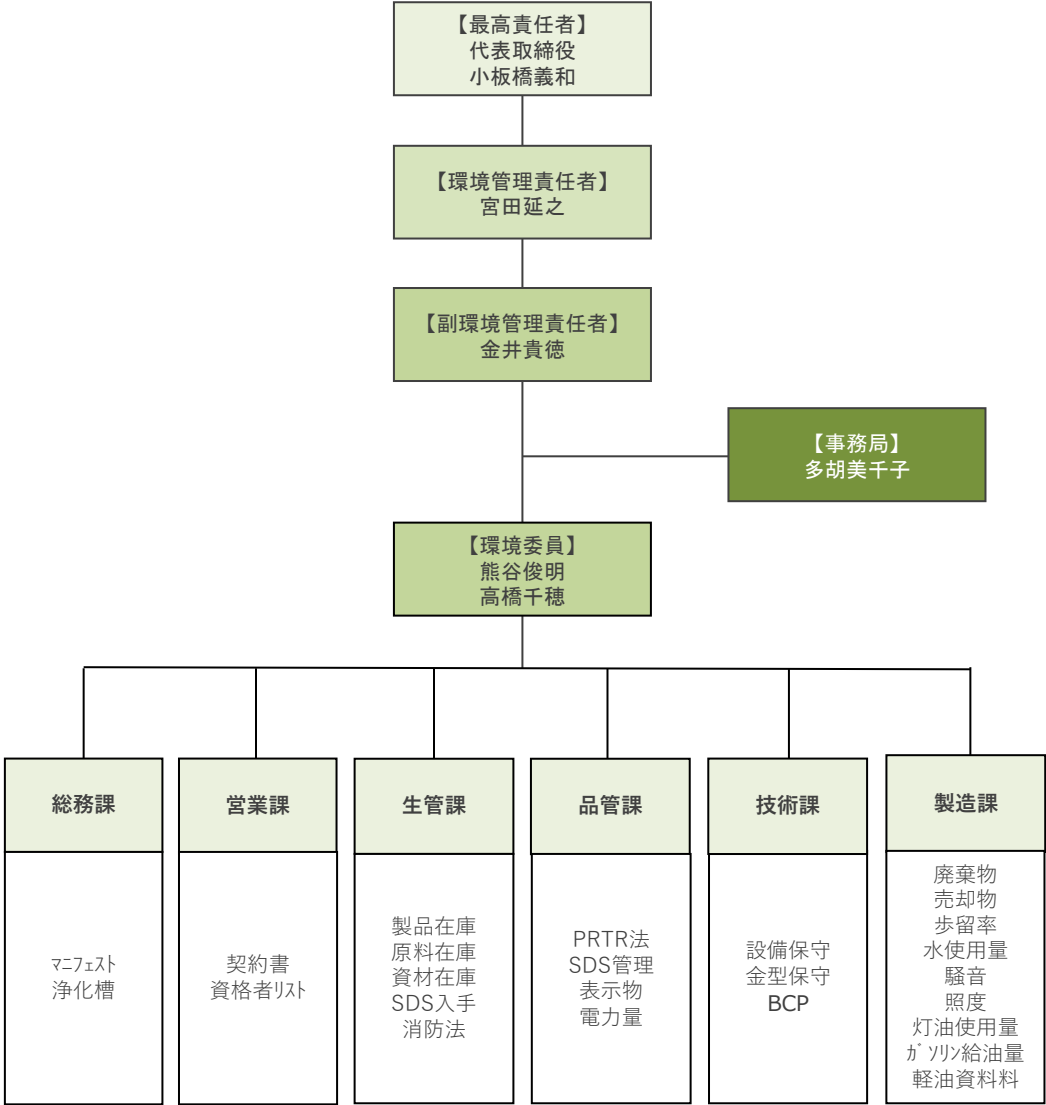
整理・整頓・清掃 及び インドネシア語マニュアル制作



2006年から エコアクション21 改善活動を継続しています。



社員全員がひとり一つの改善項目を実施しています。



	役 割
【最高責任者】	環境管理責任者及び、必要な責任者を任命する。 該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器設備・技術技能を含む）を準備・拡充する。 環境経営方針を制定する。 エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針や環境目標、システム全体の見直しを行い必要に応じ改訂を指示する。
【環境管理責任者】	エコアクション21に関する経営資源を合理的・効果的に運用し、目的を達成するために環境委員会を運営する。 エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報を最高責任者に提供する。
【副環境管理責任者】	エコアクション21の構築と運用を円滑に行う為に、環境管理責任者への助言や構築・運用に関する情報を提供する。
【事務局】	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
【環境委員会】	環境管理責任者・副環境管理責任者・事務局・環境委員で構成し、年2回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することが出来る。

昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

更新された法規はないか、新たに追加すべき法規はないか再確認し、最新のものとなっているよう責任をもって管理する。

本年度の改善実施 Do

法令自体の改定日を記し、必要な管理を実施する。

環境関連法規	管理内容 Plan	実施状況 Do	遵守 Check
自動車NOx・PM法 2024.4.1	尿素SCRシステムの装着及び 八都県指定粒子状物質減少装置の装着	1.5tトラック 尿素SCRシステム装着済	○
大気汚染防止法 2022.6.17	粉塵特定施設【強化プラスチック製品の製造の用に供する成形機】を知事へ届出	16台の全成形機 届出済 最終届出日2025.2.6.（5,13号機）	○
フロン排出抑制法 2022.6.17	7.5Kw未満のエアコン （簡易点検4半期に1回以上） 7.5Kw以上のエアコン （定期点検3年に1回以上）	7.5Kw未満のエアコン（5台） 簡易点検4半期に1回実施（自主点検） 7.5Kw以上のエアコン（2台） 定期点検2024.3.15.実施	○
浄化槽法 2024.4.1	11条検査 1 回、点検年2回実施	11条検査1/9実施済 点検5/1、9 /27実施済	○
騒音規制法 2022.6.17	朝 6～8時 50dB 昼間 8～18時 55dB 夕 18時～21時 50dB 夜間 21時～6時 45dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.26（2号機） 近隣住民からの苦情無	○
振動規制法 2022.6.17	昼間8～19時 70dB 夜間19～8時 65dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2024.4.26（5,13号機）	○
悪臭防止法 2015.8.1	臭気規制基準に準ずる 苦情が発生した際、安中市から測定される	近隣住民の苦情無し	○
自動車リサイクル法 2024.4.1	自動車リサイクル料の支払い 1.5tトラック、アウディ、パレット、ダッジ	社用車4台全て対応済	○
廃棄物処理法 2022.6.17	・ 廃棄物の保管・整備・管理 産業廃棄物に対するマニフェスト管理 ・ 毎年6/30までに1年間のマニフェストの交付状況を知事に報告	一般廃棄物と産業廃棄物の分別処分済 マニフェスト発行100%実施 2024.6.25 報告済	○
P R T R 法 2015.8.1	第一種指定化学物質の排出量の把握及び届出 1000 kgを超える場合届出	アンチモン排出量 573.9kgの為届出 不要	○
労働安全衛生法 2022.6.17	健康診断 日勤（1回/年）、夜勤（2回/年） クレーン定期自主点検（1回/年） フォークリフト定期自主点検（3台）	10/18勤実施、4/8、10、11、10/18夜勤実施 8/8実施（2基） 3/21、4/26、5/8実施（3台）	○
高圧ガス保安法 2024.10.23	高圧ガス発生装置2台のメーター及び安全弁の校正と自主点検	3/16、12/28メーター、安全弁の校正実施 自主点検毎月実施済（定期点検記録表）	○
消防法 2024.4.1	避難訓練年1回、 消防用設備等点検（1回／3年報告）	8/10火災避難訓練実施済 11/29 点検済	○
工場立地法 2022.6.17	工場敷地面積の15%確保	23.8%確保済 敷地面積（3962㎡）、緑地面積（941㎡）	○

環境関連法規の遵守 Check

環境関連法規の全項目を実施し、遵守しています。
近隣住民からの苦情及び訴訟等の問題は、ありませんでした。

社長の評価・指示 Action

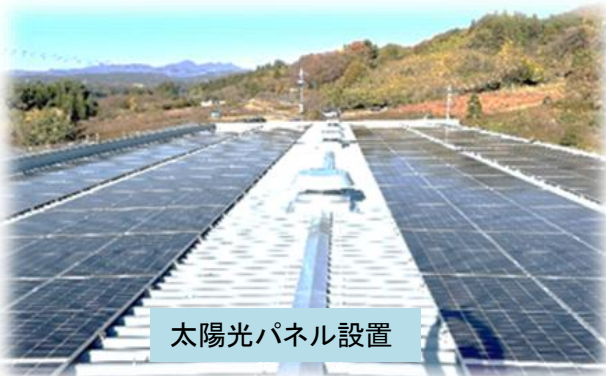
定期的に法規を確認し、変更点や追加事項の有無を確認し、届出漏れや実施・点検漏れの無いように管理してください。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

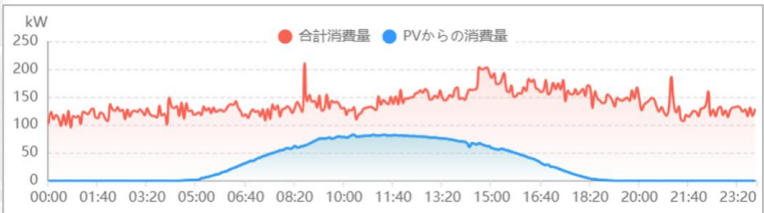
①油圧機の電動化及び②太陽光発電の設置さらに③使用していない時間の粉砕機や乾燥機の電源OFFを推進し、電力使用量削減を行う。太陽光発電の効果を確認し増設の必要有無を検討する。

本年度の改善実施 Do



太陽光パネル設置

- ①2台の油圧成形機を電動成形機に更新
- ②工場屋根に太陽光発電設置（最大出力104kW）
- ③使用していない粉砕機や乾燥機の電源OFFに関しては技術課を中心として製造課と協力し進めた。



二酸化炭素排出量の削減評価 Check

CO2排出量は短期目標2023年比で4.0%削減となり目標達成、長期目標2022年比で6.0%削減となり目標達成した。昨年まで7,8,9月にデマンドコントロールのアラームが頻繁に鳴っていたが、今年は2024年4月に導入した電動成形機や太陽光発電のお陰で一度も鳴らなかった。太陽光発電の発電量は年間消費電力の約10.8%であった為効果有と判断、2025年に増設する方向で進める。粉砕機、乾燥機の電源OFFに関しては随時対応した。灯油については特殊製法のヒートアンドクール製品の生産数が2023年比152.0%増加した事により、灯油の使用量が11.6%増えた。

長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2022年	2023年	2024年	2022年比 評価
CO2 総排出量 2%削減	CO2 総排出量 1%削減	CO2総排出量=520,330kg-CO2 売上高=609百万円 CO2総排出量/売上高=854kg/百万円	CO2総排出量=461,457kg-CO2 売上高=551百万円 CO2総排出量/売上高=837kg/百万円	CO2総排出量=400,603g-CO2 売上高=500百万円 CO2総排出量/売上高=803kg/百万円	売上比 6.0%減 ◎
電力 2%削減 (売上対比)	電力 1%削減 (売上対比)	CO2排出量=449,383kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=738kg/百万円	CO2排出量=401,481kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=729kg/百万円	CO2排出量=336,128kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=674kg/百万円	売上比 8.6%減 ◎
灯油 2%削減 (売上対比)	灯油 2%削減 (売上対比)	CO2排出量=57,406kg-CO2 CO2排出量/売上高=94.3kg/百万円	CO2排出量=48,874kg-CO2 CO2排出量/売上高=88.7kg/百万円	CO2排出量=54,547kg-CO2 CO2排出量/売上高=109.3kg/百万円	売上比 15.9%増 ×
ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=13,542kg-CO2 CO2排出量/売上高=22.2kg/百万円	CO2排出量=11,041kg-CO2 CO2排出量/売上高=20.0kg/百万円	CO2排出量=9,898kg-CO2 CO2排出量/売上高=19.8kg/百万円	15,000 kg-CO2 以下 ◎
LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=0kg-CO2 CO2排出量/売上高=0kg/百万円	CO2排出量=60kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.11kg/百万円	CO2排出量=30kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.05kg/百万円	1,000 kg-CO2 以下 ◎

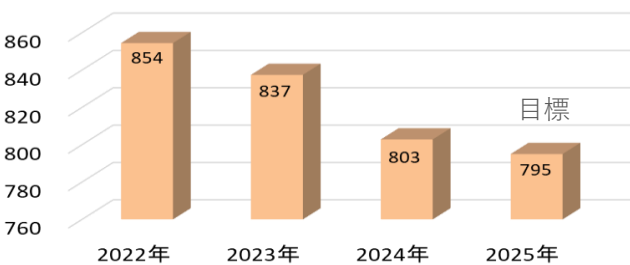
中期の環境経営目標
CO2総排出量 2024年比（売上対比）
2025年(-1.0%)，2027年(-1.5%)，2028年(-2.0%)

社長の評価・指示 Action

太陽光発電の稼働により年平均10.8%の電力費削減及び油圧成形機の電動化などの効果により目標達成できた。太陽光パネルによる屋根からの放射熱が軽減され工場内のエアコンも効率が上がり、猛暑の中快適に過ごせた。

2025年は、太陽光発電を追加して、2月より可動する予定で、更に3.5%削減できる可能性があるためその効果を検証してください。

CO2総排出量/総売上百万





昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

ダンゴ、廃棄原料、プラごみ、に区分け、排出量の集計、廃棄する原因は何で、どのように生かしたのかを明確にし対策する。2024年度は廃棄プラスチック排出量を10,000Kg以下にする。

本年度の改善実施 Do

各排出量を集計し、発生原因と対策方法を検討した
(単位: kg)

分類	2022年	2023年	2024年	発生原因	対策：活用（削減）方法
ダンゴ	3,140	3,064	2,791	色替	異材等混ざりのない物は粉碎再利用、再生資源化（売却）
				原料替時のバージ	
廃棄原料	641	328	379	再資源化（売却）不可	再資源化原料を増やす為、業者と交渉
				異材混入	夜勤者へ原料投入時の注意を日々教育
				塗装（メッキ）品	粉碎して廃棄（コンテナへの積載量を増やす為）
プラごみ類	785	945	723	原料替時のホッパー、粉碎機清掃	タンク内に原料を残さず袋に入れ、次回成形時に使用
				原料をこぼした	取扱いに気を付ける

廃棄物排出量の削減評価 Check

廃棄物の総排出量は2022年比（長期目標）30.3%削減となり目標達成となった。ダンゴ、廃棄原料、プラごみ等廃棄していた原因を明確にし対策したことで、再生資源の排出量は2022年比23.1%減少し、廃棄プラスチック量は2022年比50.0%減少し、目標の10,000Kg以下を達成した。

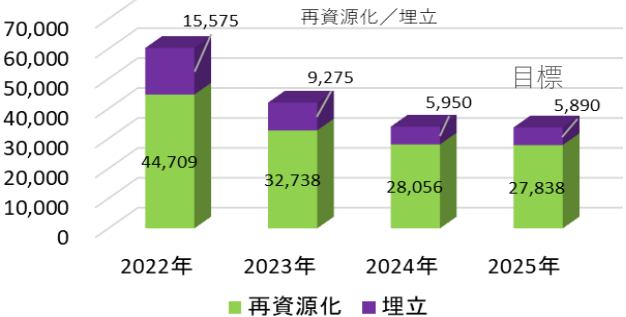
長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2022年	2023年	2024年	2022年比 評価
廃棄物 総排出量 2%削減	廃棄物 総排出量 1%削減	総排出量 = 60,912Kg 売上比率 = 100.0kg/百万円	総排出量 = 42,605Kg 売上比率 = 77.3kg/百万円	総排出量 = 34,762Kg 売上比率 = 69.7kg/百万円	売上比 30.3%減 ◎

内 訳	2022年	2023年	2024年	原単位評価
再生資源	紙=241kg 段ボール=105kg 金属（金型）=150kg 金属（スプレー缶）=54kg 再生プラスチック=44,160kg 再生資源合計=44,709kg 売上比率 = 73.4kg/百万円	紙=41kg 段ボール=262kg 金属（金型）= 0 kg 金属（スプレー缶）=38kg 再生プラスチック=32,397kg 再生資源合計=32,738kg 売上比率 = 59.4kg/百万円	紙=251kg 段ボール=394kg 金属（金型）= 0 kg 金属（スプレー缶）=30kg 再生プラスチック=27,446kg 再生資源合計=28,120kg 売上比率 = 56.4kg/百万円	2022年比 23.1%減 ◎
焼却・埋立	紙 609kg ビニール類=19kg 廃棄プラスチック 15,575kg 焼却・埋立合計 16,203kg 売上比率 = 26.6kg/百万円	紙紙 467kg ビニール類=125kg 廃棄プラスチック 9,275kg 焼却・埋立合計 9,867kg 売上比率 = 17.9kg/百万円	紙 593kg ビニール類=98.5kg 廃棄プラスチック 5,950kg 焼却・埋立合計 6,642kg 売上比率 = 13.3kg/百万円	2022年比 50.0%減 ◎

中期の環境経営目標
廃棄物総排出量 2024年比（売上対比）
2025年(-1.0%), 2027年(-1.5%), 2028年(-2.0%)

社長の評価・指示 Action

ダンゴ、廃棄原料、プラごみに分類出来て改善方法が見えるようになってきたが、さらに、①ダンゴの粉碎再利用出来たのは何%程度か、②再資源化（売却）で業者と交渉出来たのは何%程度か、より詳しい数字を明確にして更に増やせるか取り組んでください。





昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

工場内で使用している金型温調機及びボイラーの水は貯水槽により循環しているためロスは少なく、その他は生活用水として使用している。ボイラーは特殊技術であるヒート＆クール（金型を急加熱・急冷却するシステム）で使用するものであるが区別して使用量を見極めるのは難しい。生活用水はトイレや手洗いの水が主で一般的な工場に比べれば圧倒的に少量である。金型・温調機からの水漏れ早期発見、早期対応が定着しつつあるが、日常点検で毎日チェックし水漏れを未然に防ぐことを継続実施する。クーリングタワーのポンプから水漏れが目立つ時がある、こちらは月一で確認・調整を行う事で水漏れを防ぐ。

本年度の改善実施 Do

日常点検で金型と温調機の冷却水通水・水モレ確認実施。月次点検でクーリングタワーポンプの水漏れ確認・調整実施。2024年もグランドパッキンの締付調整のみで水漏れを防止する事ができた。締付けしりが少なくなってきた箇所は2025年に交換、調整を行う。



水使用量の削減評価 Check

2022年比で17.9%削減となり目標達成となりました。2年毎に放水訓練及び貯水槽の清掃を実施しているので、前回放水訓練を行った2022年と比較すると2024年は改善されている。これはクーリングタワーの水漏れ確認・調整の予防保全を行った事により水使用量を削減できた。

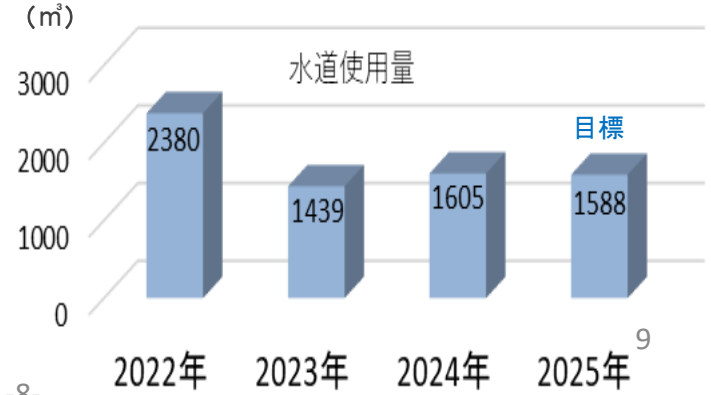
長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2022年	2023年	2024年	2022年比 評価
水使用量 2%削減	水使用量 1%削減	水使用量 = 2,380㎥ 売上比率 = 3.9㎥/百万円	水使用量 = 1,439㎥ 売上比率 = 2.6㎥/百万円	水使用量 = 1,605㎥ 売上比率 = 3.2㎥/百万円	17.9% 削減 ◎

中期の環境経営目標

水使用量 2024年比（売上対比）
2025年(-1.0%), 2027年(-1.5%), 2028年(-2.0%)

社長の評価・指示 Action

ひきつづき水漏れの早期発見・即時対応を徹底してください。





昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

購入する全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを入手し、RoHS指令で禁止されている10物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP・DBP・DIBP）が含まれていない状態を維持し、PRTR法でアンチモンの排出量が1,000Kgを超えないよう観測する。

本年度の改善実施 Do

全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを100%入手、RoHS指令禁止物質が含まれていないことを確認し1冊のファイルにまとめた（有効期限3年とした）、使用原料のアンチモン含有についてもSDSにて含有量を確認し、排出量を算出した。

化学物質登録一覧表（RoHSⅡ指令適合品） 【有効期限 2027. 3】

用途	環境調査	名称	メーカー名
油圧オイル	○	スーパーハイランド46	JX日鋼日石エネルギー(株)
金型摺動グリス	○	シンループ スーパーテンブ NO2	新日鐵化学
	○	NS1001 グリス	山一化学工業(株)
成形機グリス	○	MY2	リユーベ(株)
	○	エビノックグリス AP(N)0	JXエネルギー(株)
	○	MPO (1)	リユーベ(株)
	○	プラスターグリス B3 No2	東洋機械金属(株)
	○	スミテックF5スプレーQD	住鋳潤滑(株)
製品洗浄剤	○	JUクリーナー改	大伸化学(株)
金型洗浄剤	○	ブレーキクリーナー(HYPER SOLVENT RSE)TAC-122	(株)東洋化学商会
	○	パーツ&ブレーキクリーナー840	(株)イチネンケミカルズ
	○	GPクリーナー	中京化成工業(株)
	○	ライトストッパー	複合資材(株)
	○	モールドブライト	(株)ヤマト商会
	○	バスターマイルド	旭化成(株)



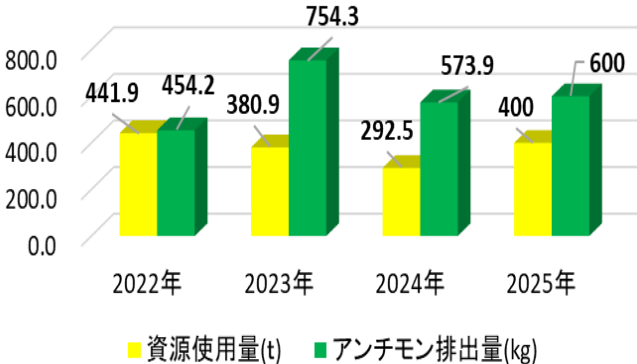
化学物質使用量の削減評価 Check

オイル・スプレー・グリス類を新規で使用する場合は、事前に製品安全データシートを入手し禁止物質が含まれない事を確認の上使用しているため有害物質ゼロを維持継続している。アンチモン排出量は目標の1000kg未満を維持している。

目標	2022年	2023年	2024年	評価
RoHS指令 禁止物質 使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	使用 0 ○
PRTR法 アンチモン 1000Kg未満	アンチモン排出量=454.2Kg 樹脂原料使用量=441.9t アンチモン量/樹脂量=0.10%	アンチモン排出量=754.3Kg 樹脂原料使用量=380.9t アンチモン量/樹脂量=0.19%	アンチモン排出量=573.9Kg 樹脂原料使用量=292.5t アンチモン量/樹脂量=0.19%	1000Kg 未満 ○

中期の環境経営目標
RoHS指令禁止物質使用ゼロ
PRTR法アンチモン1000Kg未満

資源使用量・アンチモン排出量 予測



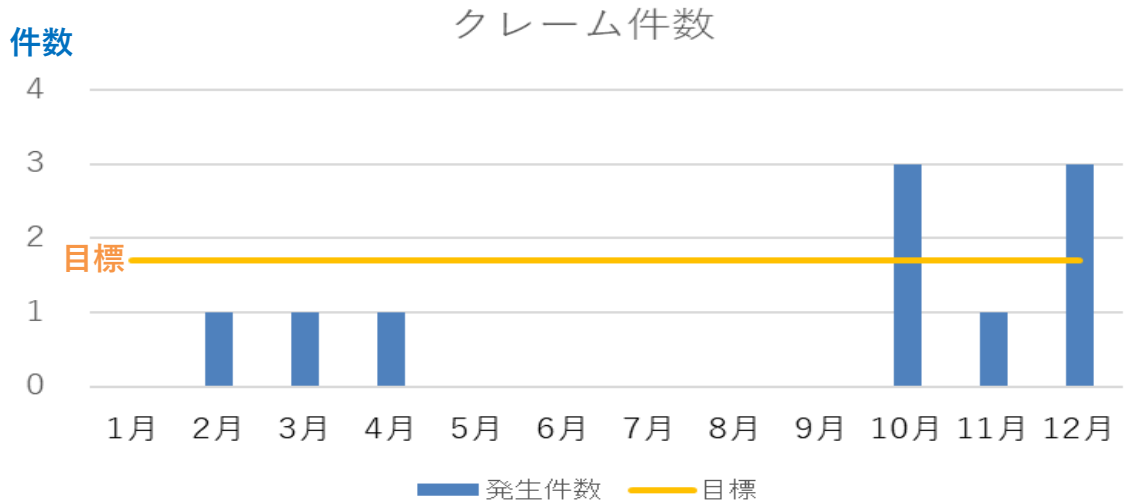
社長の評価・指示 Action

有害物質の使用はゼロを維持。アンチモンの排出量も引き続き目標値を超えないよう観測して下さい。新規使用するオイル・スプレー・グリス類の事前に製品安全データシートを入手した証拠と有効期限を決め更新した証拠を記載してください。



顧客満足の向上【クレーム件数 目標27件/年】

顧客満足を得る為にはQ（品質）C（価格）D（納期）が必要不可欠、中でも品質を最優先と考えました。最終的にクレーム0件をめざして、毎年取り組んでいます。2024年は20件/年を目標とし全社をあげて取り組み、結果10件/年で目標達成。2025年は更に気を引き締め10件/年未満をめざし取り組みます。



顧客満足の向上【かわら版】

当社の情報「かわら版」です。年4回発行しています、独自技術（ガスインジェクションなど）や社長や社員の情報や、近くのおいしいお店など満載でお客様から大変喜ばれています。



かわら版は当社ホームページで公開しています。

5 代表者の見直し

代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。

お客様・社員の喜ぶ顔が見たくて・・・



【2024年 改善活動 発表会】

売上を倍増『12億』させるには、どうしたらいいか考えて、やってみる。結果売上10%減でしたが、経営者感覚を知ることが出来た。



【インドネシア特定技能生の新宿舎】

特定技能生6名の為に一人一棟の住居を追加し快適かつプライベートな居住空間を提供。仕事も勉強も更に頑張れると思います。



【太陽光発電 107kw】

会社の屋根全面に太陽光発電を設置しました年間消費電力の約10.8%を担ってくれました。期待以上の効果がでています。



【射出成形機の電動化】

油圧成形機の老朽化及び電力消費量削減のため、電動成形機に更新しました。油圧機様、今までありがとうございました。電動機様、これからよろしくお願いします。

全体の見直し（課題とチャンス）

2024年度は業界全体で生産量が減少し、当社も同様に売上10%減となったが、自動車部品で27.1%増加、エコキュート部品では22.4%増加した事で利益が確保できた。改善活動では各課で新たな発想や新しいアイデアを出して取り組む姿勢が見られた。2024年の目玉は太陽光発電の設置と油圧成形機から電動成形機へ2台更新するなど投資活動により電力使用量（CO₂）、電力費共に削減する事が出来た。2025年にも更に太陽光発電を追加して、電力使用量（CO₂）、電力費共に削減が期待できる予定である。

来年度に向けて

2025年度の改善活動では『DX化』により、今やっている仕事を簡略化し、また短時間で出来るようにする。目的を履き違えて余計な資料を増やしたりしないように心がけてください。いち早くDX化が浸透した企業や人材しか存続できない。自分の知識だけでなく、他社や展示会へ行き情報を集めたり、詳しい人に聞いてみたり、先ずは行動することが重要です。

また、本資料の3～5ページの記載事項でだれが何を担当しているのか、繋がりが明確でない。それは改善活動と環境活動が混在しているからと考える。ここでは環境活動を主体にしたマトメ方で、誰が何を担当するのかを明確にした方が良くと思うので改めて組織の在り方を検討しましょう。

6 環境経営方針の公開

当社の環境経営方針は全社員に周知し、一般に公開します。

当社の環境方針・環境経営レポートは一般に公開しています。

株式会社ジュンコーポレイション ホームページ <https://www.jun-corporation.com/kankyo/>